

秋田県「道の駅」検定 テキスト

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
秋田-1	たかのす	大太鼓の里	北秋田市	国道7号線	<p>平成3年に秋田県の「道の駅」登録第一号となった。ギネス認定・世界一の大太鼓や、世界の太鼓約140点を展示する大太鼓の館が併設されている。入館者が実際に叩くことができる太鼓もあり、貴重な体験ができる。</p> <p>「道の駅」では北秋田市の特産品の一つ「ししとう」を使った商品開発に力を入れていて、ししとうチョコレート・ソフトクリーム・キャンディー・ラーメン・ビールが店頭と並んでいる。物産館内では「太鼓まんじゅう」の実演販売がされていて、製作過程を見学できる。</p> <p>レストラン・どんどの人気メニューに森吉山ダムカレーがある。ナス、キノコ、パプリカ、ししとうなど地域でとれた新鮮野菜の素揚げとダムの堤体に見立てたご飯、サラダがおいしそうに盛り付けられている。</p> <p>外には大型遊具がそろったドリームワールドがあり、全長17メートルの滑り台とトランポリンが一体化したアドベンチャーマウンテンなどが家族連れに人気だ。物産館入り口近くには足湯もあり、ドライブ疲れを癒してくれる。</p>
秋田-2	ふたつ	きみまちの里	能代市	国道7号線	<p>平成30年7月に現地に移転オープンした。秋田杉を多用した「道の駅」で、広く高い吹き抜けのホール天井は美しい木組みで、開放感がある。ホール2階の展望デッキからは米代川と七座山(ななくらやま)の景色を堪能できる。天気が良ければそのまま外に出ることができ、川の駅(遊歩道)、3×3バスケットボールコート、ドッグランなどに回ることができる。</p> <p>館内の人気スペースにキッズコーナーがあり、子どもたちがたくさん利用している。24時間利用可能な授乳室は明るく快適で、お母さんたちからの評判は上々だ。一角に歴史・民俗コーナーがあり、ガラス張りの床から樹齢850年という秋田杉の埋もれ木を見ることができる。二ツ井の歴史や民俗を紹介するパネル展示が充実しているのも、この「道の駅」の魅力の一つだ。</p> <p>産直・物産コーナーの地域の新鮮野菜、加工品のそろえもよく、「Koi Koi食堂」では二ツ井のソウルフード「馬肉ねぎチャーシューメン」が人気メニューとなっている。軽食コーナーでは、逆さまにしても落ちないジェラソフ、コッペパン、クレープ、ソフトドリンク、桃豚など、話題が尽きない「道の駅」だ。</p>
秋田-3	にしめ	はまなすの里	由利本荘市	国道7号線	<p>東北を代表する秀峰鳥海山の眺望抜群が自慢。「道の駅」は日本海の海岸近くに建っていて、周辺には砂地植物であるハマナスが繁殖していることから、「はまなすの里」の愛称が付けられた。</p> <p>手狭だった産直施設を平成29年夏に広くリニューアル、由利本荘市の新鮮野菜と果樹、山菜からキノコまで充実した品ぞろいになった。なかでも目を引くのが、春に並ぶマダケのタケノコで、地域ではガラタケと呼んでいる。長さが50～70センチくらいあり、クセがなくあく抜きしなくて食べることができる。</p> <p>物産館で気になるのが「なんぼこ」だ。地域の伝統菓子で、形が南蛮(とうがらし)に似ていることと、秋田では名称の後に「こ」を付ける風習があるため付いた呼び名だ。地域の特産、イチジクの甘露煮、ジャム、オーアモンドなどの加工品も人気だ。</p> <p>「道の駅」から500mほどのところに、東北最大級のハーブ園と24時間営業の宿泊入浴施設が隣接していて、「道の駅」の利用者に喜ばれている。</p>
秋田-4	やたて峠	天然杉といで湯の里	大館市	国道7号線	<p>秋田県と青森県の県境、国道7号の矢立峠に建つ「道の駅」。周囲は樹齢百年以上の天然秋田杉と広葉樹が林立していて、うっそうとした雰囲気は、さすが日本三大美林の一つと思わせる。矢立峠は羽州街道の難所だった。「道の駅」の近くには羽州街道の古道や明治初めに作られ、イギリスの女性探検家イザベラ・バードが通った明治新道が残る。その著書『日本奥地紀行』でも峠景観のすばらしさが称えられている。</p> <p>「道の駅」には大館市の特産品が揃っている。大館まげわっぱ、比内地鶏を使った加工食品、きりたんぼが物販コーナーに並べられている。レストランでは、秋田犬をモチーフにした「はちくんカレー」が人気だ。ほかには「比内地鶏きりたんぼ鍋」、馬肉を使った「馬肉煮込み定食」や「馬肉そば・うどん」、「わっぱ飯定食」がよく出る。そして隠れたヒットメニューが「朝食セット コーヒー・入浴券付き」。1000円で宿泊メニューと同じ食事を、入浴後に食べることができる。</p> <p>温泉の泉質はナトリウム・カルシウム塩化物泉で、茶褐色をしたお湯は魅力的。一般的な内風呂以外に、「天空の湯」と「かぐやの湯」の2つの露天風呂、天然秋田杉の樽風呂とさまざまある。</p>
秋田-5	はちもり	お殿水	八峰町	国道101号線	<p>世界最大級のブナ原生林が広がり、ユネスコの世界自然遺産に登録されている白神山地。その日本海側の山麓にある「道の駅」で、1キロほど北に進むと青森県となる。愛称の「お殿水」とは、「道の駅」の横の湧水の名前で、由来は津軽2代藩主の信枚(のぶひら)公が参勤交代で休憩に立ち寄り、湧水を口にし、そのおいしさを「甘露、甘露」とほめたことから、呼び名が「お殿水」となったとされている。</p> <p>民謡の秋田音頭に、「八森はたはた…」とうたわれているが、八森は秋田県魚になってハタハタの水揚げが大変多い地域。そのため、食堂では「ハタハタ天丼」が人気で、同じく水揚げが多い「フグから揚げ丼・定食」もよく出ている。ラーメンも個人的なメニューが揃っていて、「お殿水ラーメン」海藻のギバサ(アカモク)が入った「海藻ラーメン」、夏限定の「カキラーメン」などがメニューに並び、温泉に入りたいなら、車で5分ほどにある「八森いさりび温泉ハタハタ館」がおすすすめ。</p>
秋田-6	かづの	花輪ばやしの里 あんたらあ	鹿角市	国道282号線	<p>国立公園の十和田湖と八幡平の中ほどに位置する「道の駅」で、東北自動車道の鹿角八幡平ICからも近く、観光客にとってのゲートウェイとなっている。地元夏の夏祭りに、日本三大ばやしの一つ「花輪ばやし」があり、平成28年にユネスコの無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」の一つに選ばれた。施設内には参加町内の屋台を一堂に会した「祭り展示館」がある。</p> <p>旅行新聞社主催の「第42回プロが選ぶ観光・食事・土産物施設100選」の土産物施設に選定された。コンセプトは「鹿角を食べて」「鹿角を知って」「鹿角を楽しむ！」施設内には観光案内所と旅行カウンターがあり、十和田・八幡平に限らず、市内と周辺の観光情報を一挙に知ることができる。</p> <p>令和3年にリニューアルし大きく生まれ変わった。鹿角は秋田名物きりたんぼの発祥の地とされていて、レストラン&ダイニングMITACHI(味噌)では「かづのきりたんぼ膳」をはじめ、人気ブランド豚の八幡平ポーク料理、貴重な赤毛短角牛のかづの牛料理メニュー、比内地鶏の親子丼などがそろっている。専門店きりたんぼ館では、みそ付けたんぼづくり体験(1人400円)ができ、毎朝手作りのきりたんぼ鍋も堪能できる。</p>

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
秋田-7	かみおか	茶屋っこ一里塚	大仙市	国道13号線	<p>奥州街道と並んで、東北の二大街道の一つだった羽州街道。その沿線に江戸時代の一里塚は数か所しか残っていないが、そのうちの一つが敷地前にある「道の駅」で、愛称の由来となっている。</p> <p>地元の神宮寺には東北醤油(株)という醤油の醸造会社があり、その会社を代表する商品に「万能つゆ 味どうらくの里」がある。本醸造醤油にかつおだしを加えたもので、秋田県内ではよく知られた調味料だ。「道の駅」では「味どうらくの里」と地元企業とのコラボ企画として、次々と商品開発をし、現在第8弾まで広がっている。「ソフトいかさき」から始まり、ラスク、かりんとう、だんご、くるみゆべし、ドロップス、ソフトクリーム、アイスクリームと並び、ここでしか買えない限定販売品もたくさんある。</p> <p>また、大仙市は「大曲の花火」で知られているが、店頭には花火グッズも並べられている。屋台市場では土・日・祝日限定販売で、いびりガッコ入りご当地バーガー「大仙米っこバーガー」が人気だ。</p>
秋田-8	ことおか	土笛の里	三種町	国道7号線	<p>駅の近くから縄文時代の土笛が発掘されたことから、土笛の里と名付けられ、サンパリオは、縄文土器をイメージした建物になっている。</p> <p>三種町は、ジュンサイの生産量が日本一となっていて、直売施設「グリーンびあ」では5月から7月にかけて採れたてのジュンサイが並ぶ。梅やそら豆も特産品で毎年6月下旬から7月初旬に詰め放題も行われる。</p> <p>人気のお土産は「ことおか餃子」で、皮には秋田県産の米粉がブレンドされ、中の餡には地場産そら豆で製造した豆板醬が練り込まれ、味付きでジューシーな餃子として大人気。レストランで食したり、冷凍を購入することができる。また、ピンクのキッチンカーが横付けされていて、出来立てのクレープや飲み物が楽しめる。</p> <p>ソフトクリームは甘酸っぱいナツハゼの木の美「こはちゃ」、辛い「豆板醬」の種類が選べる。</p> <p>子育て世代応援のため、24時間トイレの休憩所には授乳室や紙おむつ自動販売機が設置されている。子連れのお母さん達が困った時には、子育てベテランの従業員が優しく対応してくれる。</p>
秋田-9	東由利	黄桜の里	由利本荘市	国道107号線	<p>近くにある八塩いこいの森に、珍しい黄色の花が咲く桜の樹がある。「鬱金」(うこん)、「御衣黄(ぎょいこう)」の2種の遅咲き桜で、由利本荘市東由利のシンボルとなっている。「道の駅」の愛称はその名に由来していて、「道の駅」の中心施設も「黄桜温泉 湯楽里」となっている。弱アルカリ性の天然温泉で、無色透明で滑らかな肌触りは「美肌の湯」として知られている。</p> <p>東由利では日本で珍しいバルバリー種というフランス鴨が特産。癖がなくやわらかで、味わい深い肉質だ。生肉、スモーク、ソーセージと幅広い調理法で食されていて、特に「フランス鴨のしゃぶしゃぶ」は評価が高い。地元産のそば粉100%を使用した挽きぐるみのそばを、濃いフランス鴨の汁につけて食べるつけ麺そばも絶品。また、八塩山麓に湧き出す「ボツメキ湧水」で仕込むボツメキビールというクラフトビールがある。一升瓶入りもある地ビールで、フランス鴨の燻製との相性は抜群である。</p> <p>また、ここでは紙おむつ自動販売機を設置しており、2枚1組の包装になっている紙おむつを購入することができる。その自動販売機には、移住・定住プロジェクトの人気キャラクター「黄桜すい」のイラストが塗装されており、子育て世代応援をしている。</p>
秋田-10	かみこあに	秋田杉とコアニチドリの里	上小阿仁村	国道285号線	<p>上小阿仁村では平成24年から、「KAMIKOANIプロジェクト」という現代アート・音楽・伝統芸能のプロジェクトを開催して、「道の駅」も会場としてだけでなく、さまざまな形でかかわっている。ここ2年間はコロナの影響で中止となったが、再開が期待されている。</p> <p>また、平成29年から国土交通省が全国で行ってきた、「道の駅」を拠点とした自動運転実証実験の場となり、平成31年から自動運転サービスを行っている。近い将来、自動運転による「道の駅」への野菜などの集配や、村民の生活の足の確保が期待されている。</p> <p>ここでは、村の特産品である食用ほおずき「恋どろぼう」と、ブルーベリーと同じ属科の「こはぜ」を活用した特産品開発に余念がない。それぞれ、コンフィチュール、アイスクリーム、ゼリー、パウンドケーキ、バターケーキ、ジャム、ドリンクなどに加工され、さらにかんかん、カステラ、酢、お茶など多彩なチャレンジしている。館内には4軒の食のテナントが入っていて、レストラン、食堂、喫茶とそろっている。伝統料理から軽食まで多彩なニューを楽しむことができる。</p>
秋田-11	象潟(きさかた)	ねむの丘	にかほ市	国道7号線	<p>鳥海山など360度のパノラマが楽しめる6階展望室と、雄大な日本海を堪能できる展望風呂が自慢の「道の駅」。平成10年に東北で58番目、秋田県内11番目としてオープンし、平成26年度に秋田県日本海側、南の玄関口として、国土交通省の重点「道の駅」ゲートウェイ型として選定された。これにより、にかほ市、由利本荘市合わせた6か所の「道の駅」が連携を取り、地域の観光推進を図っている。</p> <p>道の駅・象潟の施設は6階建てと大型で、各階にさまざまな施設が配置されている。1階は物産館・軽食コーナー、2階はレストラン、3階は宴会場、4階は展望温泉、6階は展望室。また、別棟でトイレ・休憩・道路情報施設、「フットスパあしほつ」と名付けられた足湯、そしてにかほ市観光拠点センター「にかほつ」とある。さらに多目的広場、夕日百選遊歩道などもある多彩さだ。地域の特産である岩ガキを始めとした由利地域の食の特産品、お土産が豊富に並べられているので、抜群の眺望とともに楽しむことができる。</p> <p>「道の駅」の敷地内には、令和5年に新たにアウトドアアクティビティ拠点施設ができる。東北最大級のモンパルストアが入店するほか、鳥海山登山、サイクリング、シーカヤックなどのアウトドア拠点となり、さらに魅力的な「道の駅」となる。</p>
秋田-12	なかせん	ドンパン節の里	大仙市	国道105号線	<p>旧中仙町は、武家屋敷と桜で知られる角館の郊外の村として、また街道と玉川の舟運の港町として栄えた歴史を持っている。いまでも黒板塀と白い塗り壁が美しい蔵が残され、町なかを用水が流れる美しい景観が見られる。</p> <p>中仙地区は広大な田園地帯の一角にあり、秋田県有数の米の産地のため、「道の駅」は米をテーマにしている。「道の駅」の愛称と物産を扱うショップの名前も「こめプラザ」となっているほど。野菜などの直売スペース「フレッシュ野菜どんぼん」の「どんぼん」とは、民謡の「どんぼん節」発祥の地として名付けられた。</p> <p>米のほかトマト栽培も盛んで、「道の駅」敷地内にあるダイセン創農という食品加工会社が、トマトを始めとしたさまざまな果樹と野菜をジュースに加工している。「毎日かとま曜日」という濃厚うま味のトマトジュースなどを販売している。また、新たに地元の酒蔵・秀よしが「道の駅」内の食堂経営に乗り出し、発酵をベースとした各種メニューが評判となっている。</p>

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
秋田-13	おがち	小町の郷	湯沢市	国道13号線	<p>秋田県最南端に位置する「道の駅」。旧雄勝町は平安時代の女流歌人・小野小町の生誕の地とされていることから、「道の駅」の建物デザインも、小町がかぶっていたという市女笠(いちめがさ)をモチーフにしている。旧雄勝町内には小野小町に関連した史跡や観光施設が点在していて、「道の駅」に来るといろいろな情報入手ができる。また、近くに「おしら様の枝垂れ桜」という樹齢約200年の一本桜があり、春の見ごろは「道の駅」でも関連イベントを企画している。</p> <p>湯沢市は秋田県を代表する日本酒の造り酒屋が多い町。「道の駅」でもさまざまな銘柄の地酒を販売している。湯沢のもう一つの名物が日本三大うどんの一つとされる「稲庭うどん」で、市内にある各社・各種類の「稲庭うどん」がそろえられている。産直施設「野菜こまち」には、近隣で栽培された新鮮野菜、加工食品、漬物など多数並んでいて、来場者に喜ばれている。</p> <p>縁があって青森県平内町と交流があり、レストランニツ森では「はたてづくし定食」「はたて丼」「はたてラーメン」などの料理を提供するほか、各種イベントではホタテ関連の催しを企画している。</p>
秋田-14	てんのう	夢と神話の里	湯上市	県道56号線	<p>湯上市のランドマークとなっている、高さ約59.8メートルの天王スカイタワーからの男鹿半島の景色や、日本海に沈む夕陽の眺めは抜群だ。「湯の民俗展示室」もあり、干拓される前の八郎潟の漁業で使われていた漁具が展示され、江戸時代の紀行家・菅江真澄が記録した八郎潟周辺の民俗や生活を伝える図絵も展示している。</p> <p>愛称の由来は、地元天王に古くから続く「東湖八坂神社統人行事」が残されていることからきている。いくつもの言い伝えがある奇祭で、これら一連の行事をもとにして名付けられた。</p> <p>敷地内には「道の駅」のスカイタワーがあるメイン施設のほか、農産物直売所、温泉、ピクニック広場、バーベキュー広場、湯の民俗展示施設、歴史の広場、グランドゴルフ場などがある大規模な施設だ。なかでもお客が切れることがないのが「食堂館くらら」。市内の野菜、果樹、加工食品などの商品構成が魅力的で、秋田市から訪れる客も多い。</p> <p>レストラン「なっば・はうす」の人気は値段により5種類ある「立ち寄り弁当」だ。また近くに江川漁港があるので新鮮な魚介類が入手でき、それらを使った海鮮丼、お刺身定食などの海鮮料理も定評がある。デザート&ドリンクにも力を入れている。</p>
秋田-15	岩城	鳥式漁港公園岩城アイランドパーク	由利本荘市	国道7号線	<p>「道の駅」のすぐ後ろにある道川漁港は、海岸から橋で結ばれた島状になっている。ウィングラスのような形をし、絶好の釣リスポットにもなっていて、親子の釣り姿などを見ることができる。</p> <p>「道の駅」には、道川漁港に揚がった魚介を販売する活魚センターという魚屋があり、新鮮な魚が売られている。「レストランはまなす」の売りも海鮮だ。なかでも「鳥海選び小井ぶり」の人气が高い。地魚や由利牛をメイン食材にした数種類の小井ぶりから好きな種類を選んで楽しめる(1種680円 税込)。入荷次第では、捕れたての地魚を使った限定メニューを取り入れることもある。</p> <p>また、由利本荘市のB級グルメ「本荘ハムフライバーガー」を、常設としては世界でただ一か所、ここ「バーガーショップ岩城」で食べることができる。</p> <p>岩城温泉 港の湯は半露天風呂で、日本海を望みながら入浴できる格別な温泉。コテージ(5棟)やテントサイト(16区画)が併設されているので、アウトドアを楽しみながら温泉を味わうこともできる。</p>
秋田-16	しょうわ	ブルーメッセあきた	湯上市	国道7号線	<p>愛称はドイツ語で“花”を意味する“Blume”と“見本市”を意味する“Messe”を合わせた造語。2万平方メートルの広大な「芝生花壇広場」や、一年中花があふれ咲く3棟の「観賞温室」があり、花を求めのお客が絶えない。2月はシンビジウム、3月は世界の蘭、4月5月はチューリップ、11月はシクラメン、12月はポインセチアタワーと季節の花弁(かき)フェアは大人気。</p> <p>ショッピングスペースの「アグリプラザ昭和」では、地元で生産されたさまざまな季節の花々を中心に、昔からの昭和地区名物・佃煮、新鮮野菜や加工食品が並べられている。なかでも「ごはんのおとも」佃煮のそろえが目を引く。昭和地区には現在7社の佃煮屋があり、伝統の甘辛く煮しめた独特の製法で作っていて、業者によっては砂糖ではなく麦芽水あめを使っている。材料は八郎潟のワカサギやシラウオ、日本海でとれるイカなどさまざまある。佃煮屋によって味に変化があるので、自分好みの味を探すのも楽しい。</p> <p>また、道の駅交流に力を入れており、沖縄から北海道まで全国13の道の駅の自慢の商品が並べられている。</p> <p>おしゃれなレストラン「花の大地」ではランチが好評で、パーティプランの相談にも乗ってくれる。</p>
秋田-17	みねはま	ボンポコ101	八峰町	国道101号線	<p>世界遺産の白山山地を、田園風景越しに一望できる「道の駅」。「おらほの館」は、産直野菜とレストランの施設で、地域の農家で構成する「峰浜産直会」の皆さんが、栽培したり加工したものを販売している。</p> <p>「道の駅」から内陸に入ったところの石川地区では、江戸時代からそばの栽培で知られている。そこで作られる「石川そば」が「道の駅」の看板商品。この「道の駅」以外で食べることができないそばとして知られている。つなぎに豆乳を使う独特の製法で、つるつる滑らかな舌触りが特徴となっている。その「石川そば」のゆで麺を産直で販売していて、「道の駅」は「そば」でも「石川そば」がメインメニューとなっている。</p> <p>また、産直カレーも人気。産直から仕入れた新鮮野菜を長時間煮込み、ナスやパプリカ、レンコンなど季節の旬の野菜を素揚げしてトッピング、あつあつのカレーを提供してくれる。</p> <p>八峰町ではジオパーク(八峰白山ジオパーク)に取り組んでいて、「ちそう(地層)ソフト」がある。大地の恵みあずきソフトと、海の恵み塩ソフトが層となったユニークなソフトだ。季節限定ソフトクリームも楽しめる。</p>

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
秋田-18	さんない	ウッディランド	横手市	国道107号線	<p>横手市山内地区は、合併するまで山内村だった。豪雪地帯のこの村では、冬季間の出稼ぎとして、各地の造り酒屋に泊まり込み、酒づくりをする「山内杜氏」を輩出した。</p> <p>また干した大根を囲炉裏の上に吊るした後、米ぬかと塩、砂糖で漬け込む「いぶりがっこ」発祥の地でもあり、「道の駅」にも活かされている。毎年開催される「いぶりがっこ」コンテストで、自慢の「がっこ(漬物)」を競うのが「いぶりんピック」。クラシカルとフリースタイルの2部門があり、その入賞者の「がっこ」が「道の駅」に並ぶ。</p> <p>もちろん山内杜氏が醸した地酒も置かれている。山内には他にない、秋田の伝統野菜に選定された「さんない人参」がある。味と香りが濃い作物で、「道の駅」では生だけでなく、「いぶりん人参」「にんじんドレッシング」などの加工品も扱っている。「山内いものこ(里芋)」、蜂蜜、ぶどうも人気の産物。</p> <p>御食事処「農香庵」の一押しは地粉を自家製粉した手打ち十割そばで、さまざまなメニューがそろっている。秋の自慢は山内の「いものこ汁」。</p>
秋田-19	おおうち	は～とぼ～と大内	由利本荘市	国道105号線	<p>由利本荘市から大仙市大曲を経て、仙北市角館～北秋田市阿仁～北秋田市鷹巣と、延長約180kmある国道105号。途中には道の駅・おおうち、なかせん、あにと3か所の「道の駅」があるがその一つ。秋田県では唯一、鉄道駅(羽越本線・羽後岩谷駅)と一体になった「道の駅」。</p> <p>宿泊施設、レストラン、農産物直売所、宴会場、楠(くすのき)の湯の温泉大浴場が備わり、日帰り入浴も楽しめる。宿泊施設は和室と洋室2タイプあり、洋室シングル4室、ツイン4室に和室は10畳10室あり、団体利用も可能。宴会プランもあり、無料送迎まであり至れり尽くせり。</p> <p>「道の駅」の人気は産直施設・ひまわり。特に大正14年創業の地元の佐々木豆腐屋の、ふっくらサクサクの「三角揚げ」が並んでいて、毎日売り切れ必至となっている。春は山菜が人気で、4月から7月にかけて、季節ごとの山菜が並ぶ。</p> <p>レストランさぬさやの一番人気は大内名物の「大内ととろ飯」。2膳分のととろ飯を、とんぶり、しょうゆの美などさまざまなトッピングで楽しむことができる。大内ダムカレーの人気も高く、ダムカレーファンは見逃せない。</p>
秋田-20	あに	マタギの里	北秋田市	国道105号線	<p>「マタギのふるさと」として知られる阿仁地区にある「道の駅」。国道105号を角館方面から走っていき、大覚野峠を越えたところにあり、旅の疲れを癒してくれる。</p> <p>愛称となっている「マタギの里」の名の通りマタギ発祥の地で、直売所には熊肉、熊の爪、熊の牙、熊の油、マタギナガサが並んでいる。熊鍋を楽しみたい人は、「道の駅」から車で10分ほどの打当温泉マタギの湯へ。マタギ料理が組み込まれた深山料理・宿泊セットで堪能できる。</p> <p>阿仁地域はマタギ発祥の地で、深山幽谷の地。そのため山菜とキノコは格別な逸品が道の駅に並ぶ。特に原木ナメコの人気は異常なほど。毎日入荷を待つお客さんが、「道の駅」開店前から並び、一人一袋制限のナメコを何とか確保しようと待ち構える。阿仁地域の気候条件などが、ナメコの生育に適しているという。ナメコに限らず、山菜やほかのキノコも高品質のものが入荷する。春の山菜祭り、秋のキノコ祭りには遠くからもお客さんが集まる。</p> <p>このほか、北秋田市名物のバター餅も数種類そろっている。</p>
秋田-21	ひない	比内地鶏の里	大館市	国道285号線	<p>日本三大美味鶏の一つ、比内地鶏の本場中の本場。江戸時代からこの地域に伝わってきた比内地鶏が、昭和17年(1942年)に天然記念物に指定され、簡単に食することができなくなった。そのため、比内地鶏のオスとロードアイランドレッドのメスと掛け合わせてつくられた交配種を固定したもので、その鶏を比内地鶏という名称で登録した。その濃い味わいは折り紙付きで、秋田名物きりたんぼ鍋には欠かさない存在となっている。</p> <p>産直施設「とっと館」では、比内地鶏の正肉、レバー・砂肝・キンカンなどのモツ、卵、濃縮スープなどを販売しているほか、比内地鶏ソフト、焼き鳥、つくねを購入することができる。</p> <p>レストラン「比内どり」も比内地鶏づくしで、一番人気は比内地鶏親子丼。もちろんきりたんぼ鍋も堪能できるほか、比内地鶏と名が付くメニューは、チャーシュー麺、柳川鍋、から揚げ、鳥カツ、カレー、モツ味噌煮、そば、うどんなどあげきれないほど。間違いなく比内地鶏の「道の駅」だ。</p>
秋田-22	五城目	悠紀の国 五城目	五城目町	国道285号線	<p>五城目町は、古くからの秋田杉の町。かつてはうっそうたる天然秋田杉が、周辺の山々に林立していたが、今は多くが人工林に置きかわっている。新たな秋田杉雑貨として組木細工やキッチン用品が開発され、「道の駅」の工芸コーナーに並んでいる。またケヤキの産出も多く、ケヤキからつくり出される美しい五城目タンスが、昔からの伝統工芸品として愛用されている。</p> <p>五城目は新旧取り混ぜた食の宝庫で、一番人気は「だまこ鍋」。食事処だまこ庵と名前にまで「だまこ」が使われているが、この「だまこ」とは炊いた米をすりこぎで半分くらいまでつきつぶし、ピンポン玉くらい大きさに丸めたもの。イメージは玉状のきりたんぼで、それを地鶏、ネギ、セリ、マイタケ、ゴボウなどをしょうゆ味で煮たもの。濃いだし汁と独特のもちもち食感が絶妙で、癖になる美味しさ。道の駅ではお手軽に、この鍋を堪能することができる。</p> <p>また五城目はキイチゴの生産者数が日本一の町で、キイチゴスイーツがさまざまある。ゼリー、ジャム、ソフト、パウンドケーキなど。秋田の地酒も豊富にそろっていて、辛党に喜ばれそうな「道の駅」である。</p>
秋田-23	清水の里・鳥海郷 (しみずのさと・ちようかいごう)		由利本荘市	国道108号線	<p>1つの山からの湧水数としては日本一といわれる鳥海山の東側山麓に建つ「道の駅」。国道108号を由利本荘市役所がある本荘から走っていくと約1時間。旧鳥海町の笹子地区にある。国道108号をもう少し走れば湯沢市雄勝で国道13号に合流する。</p> <p>春は山菜、夏はリンドウなどの花卉(かき)と夏野菜、秋は天然きのこに漬物、冬は餅の加工品と塩蔵食品など「自然の恵み」が勢ぞろいする「道の駅」だ。山菜とキノコは多くの「道の駅」に並ぶが、山深い鳥海山を背後に控えているため、ここに並ぶ山菜、キノコのサイズと美味しさは他とはちょっと違い格別なもの。</p> <p>名物・松皮餅も人気。鳥海地区と矢島地区にしか伝わっていない餅だ。切り倒した赤松の樹皮の内側のうす皮をはぎ、2～3時間煮て柔らかくして繊維を取り出し、包丁で細かく刻む。炊いた餅米を搗き、細かくした繊維を混ぜ合わせ、あんこを包んだもの。保存性が高く、昔は保存食としたともいう。人気が高いため、売りきれることよくある。</p>

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
秋田-24	美郷		美郷町	国道13号線	<p>「後三年合戦」ゆかりの地にある「道の駅」が令和3年春にリニューアルした。敷地内の古民家は「みさとのごはん」というレストランに改装。以前からあった人気メニュー「美郷たぬ中」「美郷まんま」に加え、「釜炊き銀しゃり御膳」「美郷セット」など、地元のお米をコンセプトとしたメニューが目玉を引く。古民家の柱や梁などの木を大切にデザインと和風メニューがマッチしている。</p> <p>農産物直売所と物販を統合して店舗面積を広げ、「みさとのめぐみ」と名付けた。地元や県内の食材や加工品を、おしゃれな秋田杉の棚に並べ、直売所のイメージを一新。奥には「みさとふうど」というフリースペースを設け、休憩や店内で購入した商品を持ち込んで飲食できるようにしている。窓からは広々とした仙北平野が望め、四季の移り変わりを楽しむことができる。店内の一角には古い壺や鉄釜などを展示したミニ古民具コーナーを設け、美郷らしさを演出している。</p> <p>トイレの隣にある美郷町観光情報センターには「美郷まちナビカード」を設置して、町内の観光スポットや飲食店情報を紹介している。令和3年、敷地内にオープンしたモンバルストアとともに、新生「道の駅」となっている。</p>
秋田-25	協和	四季の森	大仙市	国道46号	<p>秋田県内の国道46号沿いで唯一の「道の駅」で、秋田市と国道46号の岩手との県境にある仙岩峠との中間点に位置するため、ドライバーの休憩スポットとしてよく利用されている。令和3年秋には、秋田県で唯一、東北で5か所選定された「防災道の駅」のひとつとなった。これからは「道の駅」として、防災機能の向上が期待されている。</p> <p>地域の特産品を活用した「道の駅」名物づくりに力を入れている。協和町内でつくられている地酒「千代緑」の酒かすを使った「地酒もろこし」「地酒ようかん」「地酒せんべい」がある。協和特産のアカシアのはちみつを使った「はちみつプリン」もお土産用に人気である。協和峰吉川地区で栽培されている古来よりの品種「日本たんぼぼ」の根の部分を焙煎し、香ばしく薫り高く仕上げた日本たんぼぼソフトクリームが、ソフト好きの間でも好評を博している。</p> <p>旧協和町(大仙市)と宮崎県旧佐土原町(宮崎市)が戊辰戦争を縁とした姉妹都市を結んでいるため、佐土原の特産品を並べたコーナーもある。</p> <p>「道の駅」の横の芝生ではグラウンドゴルフができ、広場の周囲には桜が植えられ、桜の名所として親しまれている。</p>
秋田-26	十文字	まめでらが～	横手市	国道13号線	<p>愛称の「まめでらが」は「お元気ですか」という意味の秋田弁。</p> <p>平成31年3月に売り場を拡大し、野菜、いぶり大根漬(いぶりがっこ)、手作りスイーツなどの品ぞろいがさらに豊富になった。季節になると地域特産のさくらんぼ、すいか、りんご、ぶどうなどのフルーツ売り場が広がる。</p> <p>近ごろの人気は「農家のお母さんたち特製手作り漬物・和洋スイーツ」だ。漬物はいぶり大根漬けを始めとして、秋田県産の多様な漬物が並ぶ。また、サラダから横手焼きそば、くだものなどいろいろ入っている「かんでん」も好評である。</p> <p>秋田県産米を使用した自分で焼いて楽しめるせんべい生地「まめでらが煎餅」も人気。</p> <p>外の屋台では焼き鳥やたい焼き、豆富かすてらなどが並び、休日になると県南エリアのキッチンカー販売もあり、地域の人たちに喜ばれている。</p>
秋田-27	おおがた		大湯村	県道42号線	<p>大湯村の中央西部、県道42号に面した「道の駅」。隣接する大湯村千拓博物館と共にシルバーに輝く近代的なデザインで、戦後にできた新しい村のシンボリックなイメージだ。</p> <p>「道の駅」に向かう道路は東西南北にあるが、4月下旬から5月上旬にその道路を走ると、長大な桜並木のピンクと菜の花のイエローの色に圧倒される。</p> <p>農業が盛んな大湯村を象徴して、「道の駅」の中心は産直センター「湯の店」。「道の駅」の野菜売り場としては、東北有数の広さを持つ産直施設だ。ほとんどの野菜が村内の農家が生産した作物で、一年を通して野菜が並ぶ。スイーツコーナーには彩り豊かな手作りスイーツや人気の商品が盛りだくさん。一番のロングセラー商品はパンキンパイ。大湯産の「くり大将」というかぼちゃ餡をバターたっぷりの生地で包み焼き上げたもの。平成元年(1989年)から作り続けられているという。村内の農家の方が作る「シフォンケーキ」も人気。</p> <p>毎週土曜日は、男鹿市船川漁港から直送の鮮魚や海産物の加工品を販売していて、農と漁と甘いがバランスよく揃った「道の駅」となっている。</p>
秋田-28	あきた港		秋田市	国道7号線	<p>江戸から明治にかけ、北前船で栄えた港町土崎。かつては土崎港と呼ばれたが、昭和16年(1941年)に秋田市と土崎港町が合併したことにより秋田港と名を変えた。その秋田港の岸壁に隣接して立つのが秋田ポートタワーセリオンで、そこに「道の駅」がある。</p> <p>高さ100メートルの展望室は360度の大パノラマ。北に男鹿半島、東に土崎と秋田の町並み、南に秋田運河と大森山、そして西に向浜の工場群が見渡せる。展望室一角にピンクとブルーのカップルベンチが置かれていて、デートスポットとして人気となっている。ここから見る夕日の美しさは格別。</p> <p>この「道の駅」一番の人気は、「うどんそば自動販売機」。NHKの「ドキュメント72時間」で放映され、全国的に評判になった佐原商店の自動販売機が平成29年、すぐ近所のセリオンリスタ内に引越し、「道の駅」のスターになった。今ではこの自動販売機にあやかた持ち帰りうどんパック、キャンディ、パウンドケーキ、プリンがある。またセリオンタワーにちなんだセリオン坊やキャラクターグッズもある。</p> <p>また、秋田市とその周辺の野菜、くだものを始め、地酒、秋田土産など、美味しいものが豊富に並んでいる。</p> <p>秋田港にクルーズ船が入港すると「道の駅」には乗船客が押し寄せ、大変な賑わいとなる(ここ2年は新型コロナウイルスの影響で運航中止)。</p>

県-番号	道の駅名	愛称	市町村	面する道路	内容
秋田-29	こさか七滝	ハートランドこさか	小坂町	県道 2号線	<p>東北自動車道の小坂インターチェンジを下り、県道2号・樹海ラインを十和田湖に向かい10キロほど走ると左手に見えてくる。「道の駅」の道路向かいには、「日本の滝百選」に選定されている「七滝」があり、「道の駅」に居ながらにして名瀑鑑賞ができる。</p> <p>敷地内には2か所の生産・販売施設がある。産直センター「ハートランドマーケット」は地元の野菜、果物、花、ハーブなどの特産品の直売所である。</p> <p>滝の茶屋孫左衛門は土産物販売と食事処で、ラーメンにとんかつが入った小坂名物「カツラーメン」「ベニヤマきりたんぼ鍋」「きりたんぼラーメン」が人気。山ぶどうソフトも販売されている。</p> <p>小坂町特産「桃豚」の直売施設「まんまランド」では、桃豚の本格ドイツ風ハム・ソーセージを生産している。ドイツ農家協会主催のハム・ソーセージコンテストDLGで、各種金・銀メダルを受賞していて、その味は折り紙付き。直営のまんまランドでソーセージなどを購入できる。</p> <p>小坂七滝ワイナリーでは、地元の犏(ときと)地区で30年前から生産されているブドウをつかってワイン製造を行っている。その前はブドウを他県のワイナリーに出荷したりしていたが、今では自前のワインを作るようになった。令和4年4月、ワイナリーに試飲直売所「七滝ワイナリー」がオープンした。</p>
秋田-30	大館能代空港		北秋田市	県道 324号線	<p>「大館能代空港」と石川県にある「のと里山空港」は、日本に2か所しかない「道の駅」と「空港」が一体となった施設で、空港ターミナルビルが「道の駅」となっている。</p> <p>午前中に到着する羽田便には、特別なお出迎えがある。8のつく日、ターミナル出口で秋田犬が乗客を待っていて、一緒に記念写真に納まってくれる。面白いことに犬専用トイレもあり、補助犬、ペット犬が利用できる。さすが秋田犬の生まれ故郷・大館の名を冠した空港だ。日本広しといえどほかにはない空港サービスだろう。</p> <p>普通の「道の駅」とは違い大きな産直施設はないが、不定期で周辺農家の野菜などを販売する「大空市」が開催されている。令和4年3月までで開催回数125を数えた産直市は、乗降客に喜ばれている。</p> <p>2階にあるレストランポートワンの人気メニューは、地域の特産「比内地鶏の親子丼」、小坂町で生産される桃豚を使った「桃豚の生姜焼き定食」や「桃豚丼」のほか、リーズナブルでボリュームのある「日替わりランチ」も大人気。</p> <p>1階のオープンカフェ・ピッコロで提供するイタリア風ホットサンドの「パニーニ」は地域の方々にもファンがいるほどの人気メニューで、地ビールの田沢湖ビール「ブナの森」「アルト」との相性は抜群。</p> <p>ショップのANA FESTAには秋田県北部のお土産品が並べられ、特に秋田犬グッズの評判がいい。</p>
秋田-31	うご	端縫いの郷 (はぬいのさと)	羽後町	国道 398号線	<p>「道の駅」がある羽後町西馬音内地区では江戸時代から200年以上続くそば作りの伝統がある。いわゆる「西馬音内そば」はつなぎに海藻の「ふのり」を使用していること、手打ちであることが特徴となっている。</p> <p>端縫いダイニングでは西馬音内そばの老舗「弥助そばや」6代目より指導を受け、本格的な西馬音内そばが食べられる。そば屋としては珍しいセルフ方式のため、手打ちながらもリーズナブルな価格設定となっており、連日行列ができる人気となっている。</p> <p>農産物直売所には190戸以上の生産者による野菜や果物、地元の食文化をブラッシュアップした惣菜やスイーツが並ぶ。また、秋田県の伝統野菜「五葉豆」を使用した煮豆や甘納豆、パウンドケーキ、きな粉などオリジナル商品も人気。</p> <p>BonCafe(ほん・かふえ)ではおかわり無料が嬉しいオリジナル珈琲をはじめ、紅茶、五葉豆ラテ、モーニング、どんがらカレー、手作りレアチーズケーキ、フレンチトーストなど多彩なメニューが楽しめる。</p> <p>ジェラートショップうご・じえらでは羽後町産生乳100%使用のミルクジェラートをベースに地元の野菜や果物を使用したフレーバーで極上の味を演出。オンラインワンにこだわったまさに「食の駅」である。</p>
秋田-32	おおゆ		鹿角市	国道 103号線	<p>800年の歴史を持つ大湯温泉郷に新しい風を吹き込んだ「道の駅」。建物と芝生空間は建築家・隈研吾氏が手掛けた。コンセプトは人と人との交流を目指す「縁が輪になる、大湯のえんがわ」。地元産の木材や技術を活用したハイセンスな空間である。</p> <p>物販スペースの大湯えんがわショップでは、秋田杉を加工した円筒を、空間を仕切るパーテーションやショップの棚に活用。ショップスペースには地域や国内から厳選した個性ある美味しいものが並べられている。なかでも目立つのが、「道の駅」で開発した「カツノCAN」だ。缶詰の可能性に注目し「ホルモン幸楽さんのホルモン缶」「燻製屋猫松さんのいぶり大根漬け」をはじめ、しそ巻き大根、しそ巻きあんず、マルメロ缶を缶詰にして入り口付近にタワー積みしている。「かつの牛」牛だし鍋スープ、「牛だし冷麺」、世界遺産・大湯環状列石のJOMONマスコット「とばんくんクッキー」などすべて「道の駅」オリジナルで、地域の特産食材を独特のアレンジで商品化したもの。</p> <p>食事を提供する大湯えんがわカフェでは、「かつの短角バーガー」がウリ。かつの牛に合わせた特注パンズとの相性がいい。かつの短角牛コロケカレーも人気の一品。</p> <p>芝生広場側には長い足湯、温泉じゃぶじゃぶ池、草すべりの丘、野外ステージと、家族で遊べる空間がたっぷりある。</p>
秋田-33	おが	なまはげの里	男鹿市	県道 59号線	<p>秋田県33番目の「道の駅」として、平成30年7月にオープン。</p> <p>魚介類の宝庫である男鹿半島に作られた「道の駅」ということで、男鹿の魚介類を盛り込んだコンセプトを推し進めている。漁港に朝あがった魚を、9時オープンに合わせて漁師さんが搬入、パッキング・値付け・バーコードを貼り付けをして、自分で店頭で並べるルールで運営している。また、「道の駅」のホームページ上にその日入荷した魚をアップ、開店した時点の魚種を教える。なかにはまだ生きていてももったりする新鮮さだ。買った魚は1パック100円から200円で3枚おろししてくれるうれしいサービスがある。</p> <p>男鹿産の野菜や果物も豊富に並ぶ。9月になると男鹿梨の最盛期になり、入り口正面に特設コーナーが設けられる。また、男鹿の人たちが作った手作り小物の種類は豊富で、なまはげグッズとともに「道の駅」の人気商品となっている。レストラン「東洋一の海岸線」にある男鹿のレストランには、男鹿の魚介を使ったメニューが揃っている。</p> <p>秋田犬ふれあい処in道の駅おがでは、毎週土日と祝日、秋田犬とのふれあいを楽しめる。</p>